

第4回 コミュニケーション

和合館工学舎 学舎長 今西肇

大学教育でも、社会人教育でも、「コミュニケーションスキルを上げる」という話をよく耳にします。お話しされている人たちは、コミュニケーション (communication) をどのように定義されているのでしょうか。語源はラテン語の「分かち合う」を意味する *communicare* です。

デジタル大辞泉によると、コミュニケーションとは、次のように解説されています。

1. 社会生活を営む人間が互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと。言語・文字・身振りなどを媒介として行われる。「コミュニケーションをもつ」「コミュニケーションの欠如」
2. 動物どうしの間で行われる、身振りや音声などによる情報伝達。

また、補説として、「コミュニケーション」は、情報の伝達、連絡、通信の意だけではなく、意思の疎通、心の通い合いという意でも使われる。

さらに、日本大百科全書(ニッポニカ)の解説によると、「人間にとって、コミュニケーションは基礎的社会過程である。個人の発達にとっても、集団や組織の形成と存続にとっても、コミュニケーションは必要不可欠であり、人間社会の基礎をなすものといってよい。アメリカの社会学者ランドバーク George Andrew Lundberg

(1895—1966) の表現を借りるならば、

「社会と社会を構成する諸組織とが、れんが造りの家屋であるとするれば、コミュニケーションはその建築を可能にし、全体を統一的に結び合わせるモルタル」である。[岡田直之]とあります。

さて、コミュニケーションの正体を見抜くことができましたか。なかなか難解ですね。すなわち、コミュニケーションは個々の隙間を埋める概念であり、マネジメントの一つの手段とも考えられます。そこで、もっと簡単にわかる方法を見つけられないかと考えて、次のような条件があればコミュニケーションが成立すると考えました。

- ① 相手がいること、②相手は生命体であること、③それは意思を持っていること。

これらに当てはまるものとコミュニケーションをとることができると考え、何を思い浮かべますか。「ひと、犬や猫などのペット、野生の動物など」は、多かれ少なかれコミュニケーションが取れます。翻って、「AI やロボット、植物や山、ウイルスやカビなど」は、コミュニケーションが取れません。このようなことを思い浮かべると、われわれヒト科の生き物は、最もコミュニケーションがとりやすい意志を持った生命体であると言えますね。

最後に、コミュニケーションをとる手段は条件には入れていません。なぜなら、時代によって変わるからです。言葉がなかった時代、言葉の発明、文字の発明、写真の発明、電話の発明、コンピュータの発明、スマホの発明、それぞれの時代でそれらを使ってコミュニケーションをとっています。

コミュニケーションの定義を考えてきましたが、意志を持っている生命体が相手にいるということをお忘れしないで、あなたらしい方法でコミュニケーションをとってください。

・・・きっと、未来が広がりますよ。

